

South Asian Dynamics: Indo-Nepal Context

Mr. Prashant Jha

5 keywords: 南アジア、ネパール、インド、政治、controlled stability

南アジアという地域において、インドと国境を接する国々は、長くインドの影響を受けてきた。ネルーは、かつてのイギリスと同様に、南アジア全域を支配下におくという構想を持っていた。そこで特定の勢力の拡大を抑えるため、反対勢力を支持することで被介入国の政治的バランスを保とうとした。これが、インドによるコントロールド・スタビリティである。今回は、ネパールを例にインドと周辺諸国の政治的関係の特徴を述べる。

ネパールにおいては、1990年代の内戦時、国王、議会そしてマオイストという三つの勢力が拮抗していた。しかしインド政府内では、情報局と外交局の介入政策の統一がなされず、それぞれが異なる勢力を支援するという矛盾が生じた。この状況は現在も続いている。

ネパールとインドのこうした政治的関係は、インドと他の周辺諸国との関係にも当てはまる。インドの周辺諸国は、インドの意向にただ受動的に操作されてきたのではない。インドの政策が抱える矛盾は、周辺諸国が国益に適うような政策を通す余地を与えているのである。

(記録：姜明江、宮崎由伊)